

視覚障がい者ランナーと伴走者の現状分析（その3）

- 練習回数・伴走者数とその満足度調査 -

鈴木邦雄

視覚障害 視覚障がい 盲人 マラソン 伴走

・目的

視覚障がい者ランナーは伴走者のサポートを受けて走る場合が多く、そのために練習する機会、時間、内容なども伴走者に依存することになり、そのような環境で走っている視覚障がい者ランナーは練習時間、練習内容を維持しようと伴走者の確保に必死になっているのが現状であるが、実際に希望した練習内容を維持できる伴走者を確保できているかは第三者には未知の状況である。

今回の調査は伴走者を必要としている視覚障がい者ランナーが何人の伴走者と走っているかと、伴走者の希望人数や練習回数の現状を調査し、より充実したランニング環境に貢献できればと行った調査である。

・方法

1) 対象者

全国の視覚障がい者ランナーを対象にしたが、直接会えるチャンスのあるかた、ホームページ、メーリングリストなどインターネットで連絡できる方などが主体になった。

2) 調査方法

直接対面でお話を聞ける視覚障がい者のかた、メールなどでアンケートに回答をいただける方などを中心にし、一部地域には郵送でアンケートを返送していただくことをお願いした。

いずれの方法にしても、視覚障がい者ランナーに対しては伴走者が代筆していただくことを避け、ご家族などに限り代筆をお願いするように限定し、直接お会いした皆様には私が代筆し伴走者への気遣いを排除することを心がけた。

・結果

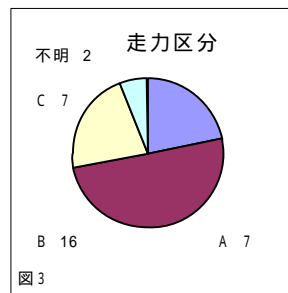
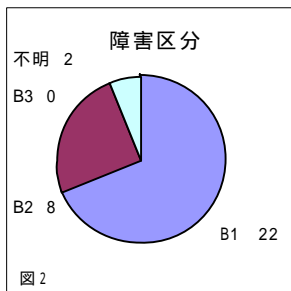
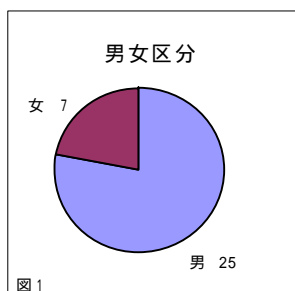
1) 対象者の分布

対象者の居住地分布

表1 対象者の居住地区分布

東 京	沖 縄	神 奈 川	兵 庫	茨 城	滋 賀	京 都	富 山	埼 玉	三 重	長 崎	群 馬	大 阪	石 川	山 梨	合計
9	5	3	2	2	2	1	1	1	1	1	1	1	1	1	32人
28.1	15.6	9.4	6.3	6.3	6.3	3.1	3.1	3.1	3.1	3.1	3.1	3.1	3.1	3.1	100.0%

対象視覚障がい者の性別、障害区分および、走力



走力の区分
 A = フル 4 時間以内
 B = フル 5 時間以内
 C = フル 5 時間以上

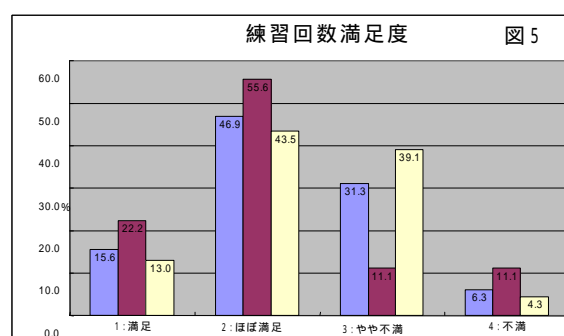
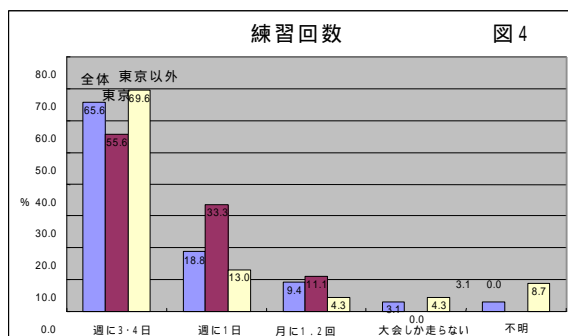
練習回数（全体、地域別）と、その練習回数の満足度

表1 練習回数

全体	全体		東京		東京以外	
	人数	%	人数	%	人数	%
週に3・4日	21	65.6	5	55.6	16	69.6
週に1日ほど	6	18.8	3	33.3	3	13.0
月に1・2回	3	9.4	1	11.1	1	4.3
大会のみ	1	3.1	0	0.0	1	4.3
不明	1	3.1	0	0.0	2	8.7
合計	32人	100.0	9人	100.0	23人	100.0

表2 練習回数の満足度

満足度	全体		東京		東京以外	
	人数	%	人数	%	人数	%
満足	5	15.6	2	22.2	3	13.0
ほぼ満足	15	46.9	5	55.6	10	43.5
やや不満	10	31.3	1	11.1	9	39.1
不満	2	6.3	1	11.1	1	4.3
合計	32人	100.0	9人	100.0	23人	100.0



伴走者の人数及び満足度について

表3 伴走者の人数

伴走者数	0又は不明	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	合計
人数	7	0	4	6	6	6	2	0	0	0	1	32
%	21.9	0.0	12.5	18.8	18.8	18.8	6.3	0.0	0.0	0.0	3.1	100.0

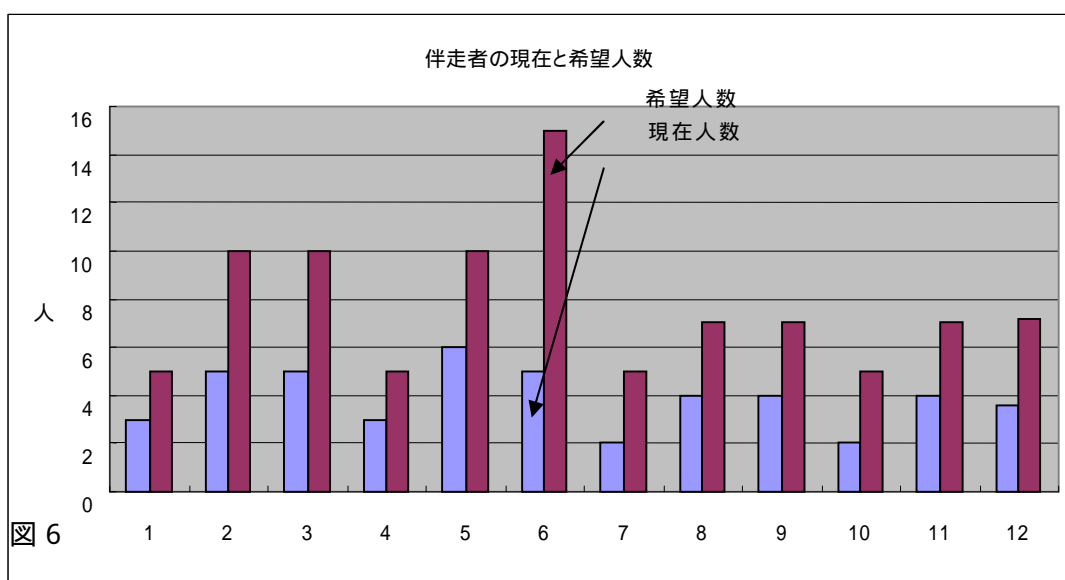
表4 伴走者の人数の満足度

満足度	全体		東京		東京以外	
	人数	%	人数	%	人数	%
満足している	17	53.1	6	66.7	11	47.8
不満	11	34.4	2	22.2	9	39.1
不明	4	12.5	1	11.1	3	13.0
合計	32	100.0	9	100.0	23	100.0

いつも伴走してくれる伴走者人数に対して、希望の伴走者の人数

表5 伴走者の現在人数と希望人数

No	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	平均
現状	3	5	5	3	6	5	2	4	4	2	4	3.9人
希望	5	10	10	5	10	15	5	7	7	5	7	7.8人
%	167	200	200	167	167	300	250	175	175	250	175	200%



・考 察

1) 対象ランナーの現状

- ・宮城県、富山県、から沖縄まで 15 都道府県の 32 名の皆さんにご協力いただいた。
- ・男女の比率は男性：25 名、女性：7 名である。
- ・障害の区分は B 1：22 名、B 2：8 名、不明：2 名である。
- ・走力についてはフルマラソンを走るタイムで区分したが、フルマラソンのタイムを申告してくださらない(走った事の無い)ランナーに対してはフルを走った場合の推定走力で区分した。

結果は 4 時間以内：7 名、5 時間以内：16 名、5 時間以上：7 名、不明：2 名と 5 時間台が半数で視覚に障害を持っているランナーとしてはすばらしい走力である。

2) 練習回数について

週に 3 回以上練習している視覚障がい者ランナーが全体で 65%以上いる事に驚嘆した。この練習回数は晴眼者ランナーでも自慢できる練習回数である。

その反面、月に 1・2 回、または大会しか走らない(走れない)視覚障がい者ランナーがいることも事実である。

練習回数の満足度では「満足」「ほぼ満足」が東京在住者では 78%だが東京以外では 56%しかなく、「やや不満」「不満」が東京在住者では 22%に対し、東京以外では 66%にも達している。

3) 伴走者の人数

常日頃伴走をお願いできる伴走者の人数を回答してもらったものだが、2 人から 5 人の伴走者との連帯を取っている人がほとんどであった(約 69%)。

伴走者の人数の満足度に関しては東京在住者の「満足」は 67%、「不満」は 22%、東京以外の「満足」は 48%、「不満」が 39%と練習回数の満足度と同じような傾向を示している。

4) 希望の伴走者人数

現状の伴走者人数に対して、どのくらいの人数を望んでいるかを調べたものである。

伴走者の人数に満足していない 12 人のサンプル者の現在の伴走者人数と希望人数を調べたが、現状伴走者人数は 2 人から 10 人と幅があるが、最低でも 167%(3 人の伴走者がいるが 5 名は欲しい)から、300%(5 名の伴走者がいるが 15 名欲しい)など、平均で現在の伴走者人数の 2 倍(200%)の伴走者を希望しており伴走者が不足している現実が現れている。今回のアンケート対象になっていない地域のランナー達にとってはもっと切実な問題で、月に 1 回、片道 3 時間、交通費は往復で 1 万円ほどかけないと練習できない視覚障がい者ランナーがいることも知ってもらいたい。

・結 論

伴走者が不足していると言いつつ、首都圏では練習会の開催も多くなり、伴走者の数も増えてきており、一見伴走者は足りているように見えるが、その現実には走りたい時に走れないなど伴走者が不足していることは解消してなく、平均しても定期的に走ってくれる伴走者の 2 倍の伴走者を望んでいる事が判明した。

この調査が少しでも視覚障がい者ランナーの練習環境向上につながる事を祈る。